

緑の風 FAX版

NO. 67 2018年12月27日 JR東労組



J R 東労組ホームページ

羽越線脱線事故から13年、事故を風化させないため
新潟地本の仲間と共に12月25日に慰霊を行う



2005年12月25日に発生した羽越線脱線転覆事故から13年が経ちました。事故は、ダウンバーストと呼ばれる局所的な突風によるもので、予測は困難だとされています。しかし、二度と「命」が失われるような事故を発生させてはなりません。会社は、対策として早め規制の実施や風速計・防風柵の整備、ドップラーレーダーの設置・活用を行っていますが、果たして、ハード対策だけで命を守り抜くことができるでしょうか。

感性・感覚・判断力を養い、危険と感じたら列車を止める安全風土を労働組合としてつくり出していかなければなりません。そのためにも「命を守るための実践と議論」を積み上げていきましょう！！

**全組合員の実践と議論で
職場の安全風土を築き上げよう！！**